

# 北海道建設新聞

2014年(平成26年)6月24日(火曜日)

## 増毛山道の歩み紹介

### 札幌駅前通地下歩行空間で

NPO法人増毛山道の会は21日、山道が持つ歴史的価値を伝えるイベントを札幌駅前通地下歩行空間で開き、ササ刈りによる山道復元や体験トレッキングといった取り組みをパネルなどで紹介した。

増毛町別荘と石狩市幌を結ぶ増毛山道は1857(安政4)年、増毛の漁場を請け負っていた伊山道のルートを示した長さ5.5kmの航空写真

達林右衛門が私財を投じて開削。物流を支える内陸路として利用されたが、その険しさなどから次第に使われなくなっていた。



今回のイベントは、札幌在住の会員を中心に約20人が準備に当たった。53枚のイベントスペースを活用し、山道の歴史的経緯を紹介するパネルや山道のルートを記した航空写真、1907(明治40)年に埋設された一等水準点などを展示した。

4年目を迎える山道体験トレッキングのPRも兼ねており、同会の理事を務める小杉忠利小杉測量設計社長は「増毛山道は現代に残された貴重な遺産。そこには北海道の歴史の一端が埋もれている。若い世代にもぜひ知ってほしい」と呼び掛ける。

同会はこれまで16kmの山道を復元し、維持管理している。ことしは雄冬山直下までの5kmの延伸を計画。7月からササ刈りなどの作業に取り掛かるという。